

季節のご挨拶

季節は巡り、今年も早いもので年末となりました。

この時季になると、いつものことながら自然の営みで夏至が近づき、8時頃に台所に立つと、右手(西)の方から、夕陽がまっすぐ入り込んでくるようになります。ツバメたちも巣を作り、子育てを始めます。セミも鳴き始めます。しかし、ここのセミ、体が小さいこともあり日本のセミの鳴き声のような迫力はありません。夏の始まりとはいえ、朝は寒く、ときどきストーブを使うこともあります。

こうした自然の循環とは別に、喪中ハガキが届くようになります。2021年には二人が亡くなりました。Hの学生時代の32人のクラスで、これで5人が亡くなったことになります。何とも亡くなるのが早いなあと思ってしまいます。次にふと思ったのが、左右対称で中央が山型の正規分布のグラフでした。横軸に死亡年齢、縦軸に死亡者数を表わしたものです。2020年



WHO発表の日本人男性の平均寿命は、世界で2番目の長寿で81.64歳。この平均年齢をピークとして、左側のカーブは急上昇していきます。死亡者数が急増するのです。今後、高齢者の平均寿命が高まるにつれ、このグラフも徐々に右側に移動していくことになります。グラフ右側に描かれるカーブは左側とは対照的に、右下がりに描かれます。考えてみると、85歳や90歳、人によっては100歳まで生きる人があります。そうすると、グラフの左側が少ないのでは、右側とバランスが取れません。「32人で5人というのは、まあそんなものなのかなあ」と思ったことでした。これから間違いなく死亡者が増えていきます。これまで自分の死は他人事のように思っていました。この数字を見ながら、現実的に向き合わねばと考えています。

数年前に開かれた同窓会の写真が手元にあります。亡くなった2人は偶然にも隣り合わせて立っています。一人は驚いたような顔で、もう一人は渋面で写っています。名前を入れてもらった写真を眺めていると、50年前とあまり変わらない人あり、全然誰か分からない人もあります。Hもあと数年で、後期高齢者となります。健康寿命である72.14歳は無事にクリアしました。

Jも65歳を超え、NZの年金をもらえるようになりました。WHOの定義によれば二人とも高齢者となったことになります。これからの人生、高齢者として日々の身近な生活から生まれてくる生きがい大切に、規則正しい生活を続け、健康的な食事、適度の運動、そこそこの経済力を持ち、ストレスの少ない生活が続けられたらと願っています。

2021年はコロナ禍の一年でした。幸いにして私たちはコロナにも、大きな病気にも罹らず、一年を過ごしました。Hはほとんど家の敷地内から出ず、ガーデニング、薪づくり、家の修理・管理に明け暮れました。Jはガーデニング、翻訳の仕事に加え、週に2回ほどパエロアとチームズに出掛け、買物や家族・友人訪問、インドダンスなどをしていました。2021年は日本への帰国を含め、海外旅行が全然、出来ませんでした。それほど生活に飽きることもなく日々の生活を過ごしてきました。

古い英国人の友人がニューヨークで、奥さまとご子息を残して亡くなったと年末にメールがありました。スペイン在住で闘病中だったJの兄も71歳で亡くなりました。感慨深いものがありました。

文中にある H はヒトシのこと、J はジリアンのことです。

今年も季節のご挨拶をお送りします。長くなりましたが、最後までお読みいただければ幸いです。

パエロア(Paeroa)という町

私たちが住んでいるパエロア(Paeroa)という町をご紹介します。Paeroa とは先住民のマオリ語で、長い山並の分水嶺を意味します。町は山並の西側に広がる平地にあります。緯度は南緯 37'4"、経度は東経 175'7"に位置します。地図を赤道で半分に折り曲げると、日本の福島県の郡山あたりになります。郊外を含めて、人口は 4,600 人です。ロケーションは北島の中心よりやや北にあります。主産業は酪農です。

町の中央を東西に国道 2 号線が通り、南北にも国道 26 号線が通り抜けています。この国の最大の都市オークランドは北西にあり、距離は 121km、車で約 1 時間 40 分で行けます。2 号線を東に向かえば、第 5 の都市タウランガに通じます。距離は 79.4km あり、所要時間は 1 時間 20 分で着きます。国道 26 号線を南に辿れば、この国の第 4 の都市ハミルトンに通じています。距離は 76.7km あり、所要時間は 1 時間ほど。国道 26 号線を北に向かえば、32km で J の故郷チームズに行けます。

パエロアの町には国道のバイパスはなく、町の中心を国道が通り抜けています。国道は町の中では制限時速は 50km となりますが、町を離れると 70km に、そして 100km となります。もちろん通行料金は無料です。日本の高速道路のように高架になっておらず、郊外では羊や牛などが、高速道路を横断することもあります。交通は対面通行ですから、もし時速 100km の車同士が正面衝突すれば、悲劇的です。

わが家から車で町に向ってみましょう。家を出てしばらくすると国道 2 号線にぶつかります。ここに入ると、いきなり走行時速 100km で走らなくてはなりません。このドライバーたちは、妙に制限時速に忠実に運転しがります。少しゆっくり目に走っていると後続車がイライラしているのが、よく分かります。道路の舗装は、日本の昔々の方法が今でも使われています。コールタールを路面に吹き付け、砂利をその上にバラまくだけ。転圧は走る車に任せられます。舗装されたすぐに後に走ると、砂利がタイヤの下でパラパラと音を立てます。完全に転圧されていないため、高速の車が、これを跳ね飛ばして対向車のフロントガラスを傷つけることがよくあります。

わが家は町の東方約 6.5km にあり、5 分ほどで着きます。時速 100km で走った後、町に入ると 50km になります。平屋一戸建、芝生付きの家々が立ち並ぶようになります。園芸大国といわれるだけあって、家の周りには塀の代わりにバラ、椿、西洋シャクナゲなどが植えられていて、一年を通して、花を咲かせています。家によっては、果樹を植えてあるところもあります。タネを播いて育てる一二年草は、あまりありません。芝生は法律的に決められている訳ではありませんが、どこの家も短く刈り込まれています。生まれながらの NZ 人の DNA がそうさせるのでしょうか。草が伸びると、ローンモアを持ち出して刈り始めます。

2 階建の家は、ほとんど目にしません。しばらくすると、左手に巨大な清涼飲料水の瓶の彫刻が現れます。この町は、古くはいい水が出ることから全国に知られた清涼飲料水を生産する町でした。今

はその工場はありませんが、かつてのシンボルを彫刻にしてあるのです。歴史の短いこの国では、他にも魚や犬、キウイなどの、こうしたシンボルになるものが街角に立てられていることがあり、観光名所となっています。この辺りからオヒネムリ川が町に沿って流れるようになります。

国道 26 号線へのラウンドアバウトを越えると、道の両側に商店が立ち並ぶようになります。アンティークショップが多いのが、この町の特徴です。しかし、本格的なアンティークというよりは、セカンドハンドの商品を扱う店がほとんどです。

車を路側帯の無料の駐車スペースに駐車して、町を歩いてみましょう。駐車されている車は圧倒的に日本車が多く、7~8 割ほど。後の残りが、ホールデン(豪州)、ドイツ車、韓国車(現代、起亜)といったところです。EV は見たことがありません。この町には鉄道が通っていません。当然のことながら駅はありません。そのため、センターになる場所がはっきりしません。市内循環バス也没有ありません。高層ビルもなく、高層マンションもアパートもありません。それに特徴的なのが、信号機がないことです。公立の図書館が一つあります。しかし週末は土曜日に午前中だけ開き、日曜日は休館日です。週日でも 5 時半には閉館してしまいます。これでは、一般社会人はとても利用できません。

町のほぼ中央にドメインがあります。最近ではドメインといえばメールアドレスの一部の名称として知られていますが、古くから英国圏ではドメインは、公園や競技場が兼用となった場所のことを意味します。ご多分に漏れず、この町にも広大なドメインがあり広々としたラグビー場があります。ラグビーと言えば、この国の国技のようにポピュラーなスポーツ競技ですから、芝生のラグビー場も町の必須の施設なのでしょう。

大型スーパーが一軒、医療機関が二か所ありますが、今現在、何故か歯科の先生はいません。一番近い歯科がある町までは 32km、車で走らなければなりません。町でうるさいと感ずるのは、矢鱈とクラクションを鳴らす車があることです。どうも車に乗っている友人や知人を見つけると親愛の情を表わすため鳴らすようなのです。自分も運転していてクラクションを鳴らされると吃驚してしまいます。何か他の方法を考え出してほしいものです。

前々から不満なのは、パン屋さんがいないことです。スーパーにパンは売っていますが、旨くありません。雑貨屋の片隅に雑誌を並べてあるところはありませんが、書店がありませんし、映画館もありません。農協もありません。パブは一軒だけあります。音楽、演劇、舞踏などを上演する文化会館(センター)はありませんが、学校の体育館のような施設があり、ここで文化会館の代わりにされることもあります。エスカレーターのある建物もありません。

町の特徴を知るのに、その町のいちばん高い建物が何かを知ると分かってくることがあります。ホテルが一番高いとなれば、その町は観光地です。企業城下町なら、その企業の建物が一番、高いでしょう。地方に行けば、お役所、農協、漁協といったところになってきます。パエロアではどこかと言えば、3F 建てが、一番高いところです。元々の企業が倒産し、今では数社の製造業が入っているとか。これではパエロアの町の特徴を象徴しているとは言えませんね。

相当な田舎の感じがしますが、交通の要衝に位置し、市役所の本庁があつたりして、この人たちにとってはこの地域のかんりの中心都市の意識があるようです。

コロナ禍の日々

2021 年も一年を通して、コロナ禍で明け、そして終わったという感じがします。相手が病原菌なだけに一進一退の日々が続きました。NZ は世界でもコロナ対策優等生とされるだけに、12 月 31 日の数値を比較してみると。それがはっきりします。

国 名	感染者数	死者数	摘 要
ニュージーランド	363 人に一人	99,600 人に一人	
日本	73 人に一人	6,989 人に一人	
アメリカ	6 人に一人	403 人に一人	最大の感染国

その成功の主因は、水際対策でした。入国できるのは NZ 人か永住権取得者に限られました。もし、入国できたとしても、その後が大変です。管理隔離施設で 2 週間の自己隔離があります。この施設は政府が指定する宿泊施設のことをいいます。指定された室内からの外出は許されず、食事は運ばれてきたものを食べるしかありません。運動が許されている牢獄の方が、まだましとも言われました。それに何といっても牢獄の入居費はタダですからね。

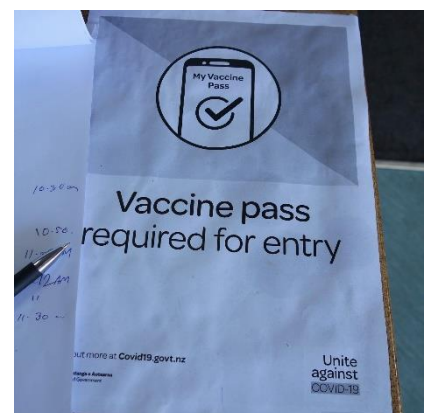
こんな施設ですが、何とその入所抽選倍率も費用が高いのが難です。試しに 9 月 20 日にオンラインで申し込みをしてみました。希望者が 31,800 人、空き室が 5,364 人で 5.9 倍でした。もし当選しても、その後が大変です。宿泊利用料が一人で \$3,100 (約 25 万円)、二人で \$4,050 (約 33 万円)。これだけの費用があれば、もう一度、海外旅行が出来そうです。これだけ、抽選倍率が高くても、政府は施設の利用者数を増やそうとはしませんでした。利便性よりも感染拡大防止を優先したのです。

NZ 人で外国に出稼ぎに行っていてコロナ禍で失業しても、管理隔離施設のハードルが高すぎて、帰国出来ないという社会問題も発生しました。コロナ禍で浮き彫りにされたのが、思ったより沢山の人が海外に出稼ぎに出ているという実態でした。これだけ長く、厳しい水際対策が続いたため、経済界や野党第一党の国民党からは、経済対策を求める声も出てきましたが、感染者、死者とも非常に少ないので、大きな声とはなっていません。

政府の鎖国のようなコロナ対策が続いていましたが、年末になりようやく出口対策が発表されました。ワクチン接種証明書（パス）を確認することによって、飲食店などへの入店、イベントへの参加などを広く認める方針が打ち出されました。先日、行ったカフェの入口には入店にはワクチン接種証明書が必要(写真)となっていました。実際には何のチェックもなく、入店できました。

ワクチン接種に強制力はありませんが、接種しないと場合によっては解職されたり、レストランやカフェに入れなくなったりします。NZ 航空の国内線の搭乗者にワクチン接種証明書を求める

ことになりましたし、国際線も近くそのようにすると発表しています。徐々に外堀から埋めていく作戦のようです。国民の中には、ワクチン摂取していない人とは会いたくない人も出てきており、NZ



人の間の分断も危惧され始めました。

しかし、ワクチン接種していないと社会から完全に除外されてしまうかと言えば、そうでもありません。生活を営むのに最低必要な施設であるスーパーマーケット、コンビニ、公共交通機関、薬局、医療保健機関ではワクチン接種証明書なしで利用できます。

日本への帰国

2020 年 4 月、いつものように 8 月に日本へ帰国するため、NZ 航空の日本への往復チケットを購入しました。この時には、コロナウイルスの発生が拡大しつつありましたが、7、8 月に東京オリンピックの開催が予定されていたことから、まあ大丈夫なのかと判断した結果でした。しかし、その後、コロナウイルスの拡大が続き、どこの国も旅行者の移動を禁止し始めました。日本もオリンピックの 1 年間の開催延期を決め、8 月のお盆には帰国できませんでした。

コロナウイルスの程度により、日本に入れる外国人への制限が加えられ、一番ひどい時には入国禁止となりました。少し落ち着くと、日本人の配偶者である外国人は「特段の配慮」により入国可となりました。そしてオミクロン株の発生拡大により、再び入国禁止となっています。状況は刻一刻と変化しています。

もし、日本への入国できるようになっても、NZ 出国前の事前の PCR 検査の結果が陰性であることが義務付けられています。日本に入国して、再び PCR 検査の結果が陰性であること。それが済むと、2 週間の自宅など又は指定された宿泊施設での自主隔離が待っています。そこまでの移動には公共交通機関の利用は認められていません。徒歩、ハイヤー、友人の車、レンタカーを借りれば自分で運転するかしかありません。飛行機の国内線の乗り継ぎもできません。海外からの飛行機に開かれている空港に近い所に住む人たちには問題ないでしょうが、私たちのような遠方に住んでいる者にとっては、これは大きな障害となります。

日本滞在を終えた後、NZ への帰国となりますが、NZ 側の水際対策で MIQ(Managed Isolation and Quarantine)と呼ばれる隔離と検疫があります。「コロナ禍の日々」にも書きましたが、予約が取りにくい、非常に高額な 2 週間を隔離施設で過ごさなければなりません。早くこの措置が緩和されるのを願っています。

手持ち航空券の条件緩和があり 2020 年 4 月に購入した NZ 航空の航空券の予約は 2022 年 6 月末日まで予約ができ、2023 年 6 月末日までに旅行することと条件が延長になり助かりました。手もちの JAL、ANA の特典航空券の有効期限のこともあり、何とか 2022 年の 6 月頃までには帰国できたと願っています。

丸 2 年以上、帰国していませんので、帰るとお役所の手続きや病院での体のチェックやケア、買物、出版社との打ち合わせなど、たくさんの仕事があります。日本でしかできない温泉巡りや食事なども楽しみにしています。

テームズに住む知人の弁護士の死

テームズに住む知人の弁護士(80 歳)が 8 月 5 日に亡くなりました。ご子息は二人とも弁護士で英国在住。緊急に英国から NZ に戻って来ても、管理隔離施設での 2 週間の自主隔離が待っています。この施設、希望者が殺到していて、人選はくじで決められていましたが、幸い、ご子息の場合は特別な事情ということで入所できました。

ご遺体は、腐敗防止のため葬儀会社の冷蔵庫で保管され、葬儀は自主隔離が終了したあとの 2 週間後に行われることになっていましたが、8 月 2 日からロックダウンとなりレベル 4。集会が出来なくなり、たくさんの人たちが集まる葬儀も中止となり、家族のみの葬儀となりました。折角、遠路、ロンドンから帰り、2 週間の自主隔離をしたにもかかわらず、広く人を集めての葬儀も出来ず、さぞかし無念だったと思われます。

免疫力を高める

外部から侵入してくるウイルスや細菌と戦う体の免疫力を高めるため、食物繊維を日常的に食べるようにしています。食物繊維は野菜、マメ、穀物、キノコ、海藻に多く含まれますので、自家製の野菜をメインとして、鍋物にして食べることが多いです。野菜は生よりも、煮込んだ方が量を食べられます。こうした食生活のお蔭もあってか、二人とも大きな病気もせず、日々の生活を過ごしています。

免疫力を高めることの詳細は、『「腸内細菌」が健康寿命を決める』（辨野義己著、インターナショナル新書）をお読みください。

ガーデニング

今、2 か所ある 200 坪ほどの畑で野菜を作っています。これは主に J の仕事となっています。耕運機や草刈り機の操作は、H が受け持っています。果樹はまとめて栽培することもなく、ぽつんぽつんと作っているため、面積の広さはよく分かりません。

2020 年の初めまでは、年に 2 回づつ帰国していましたが、それ以降、コロナ禍で帰国出来ないのが時間が十分とれることになりました。そこで余った時間の向かった先はガーデニングでした。これまで同様、無農薬有機栽培を続けています。マルチなどのビニルの石油製品も使っていません。肥料は、隣地からもらってくる乾燥牛ふん、コンポスト、コンフリー液肥、草木灰を使っています。今年は、これまでよりも、それぞれの使用量を増やしています。これまで無農薬栽培のため、窒素肥料を少なくして病気の発生を抑えるようにしてきましたが、全体に肥料分が不足していると判断した結果です。

栽培を始める前に、乾燥牛ふん、コンポスト、草木灰を散布した後、耕うんして、しばらく放置した後、苗を植えます。

肥料、土壌改良など

コンポスト

大きく分けて 3 種類のコンポストがあります。一つ目はボプラ、アメリカ楓、ピンオークなど落葉を積んで発酵させたもの。これには特に何も加えなくても発酵します。しかし、時々、切り返しをします。落葉の難点は、集めるのに手間が掛かることにあります。二つ目は、刈り取った草を木の下に積んで作るコンポストです。これには土を加えたり、フスマを混ぜて、水を掛けて発酵を促します。落葉と比べると手間が掛かりますが、草を集めるのは簡単です。たくさんのコンポストを作ることが出来ます。最後は家庭ごみをコンポストビンに投入して発酵させるものです。発酵菌は入れていませんが、発酵してコンポストになります。あまり量をたくさん作れないのが難点です。

コンフリー液肥

シソ科の多年草で和名ヒレハリソウという植物があります。英名はコンフリー(Comfrey)で、こちらの方がよく知られた名前です。昭和 40 年代に健康食品として日本でも大ブームとなったことのある植物です。その後、このコンフリーに毒性があることが認められ、ブームも下火となりました。

わが家の草地に自生するコンフリーを使って、液体肥料を作っています。こうすれば、毒性はないとされています。カリウム、窒素、リン酸などが多く含まれているので、野菜の苗を植えた時や、野菜が元気のない時に、水に薄めて掛けています。

草木灰

ストーブから出てくるものと、屋外で剪定などで出てくる枝などを燃やしたものの 2 種類があります。ストーブの灰は秋から春先までですから、かなりの量になります。屋外の焚火で出てくるものは、一辺に沢山できますが、屋外での焚火の期間が制限されているのが難です。

牛ふん

主な肥料分は、家畜のふんを活用しています。最近では隣人のパドックの牛ふんを拾ってきて、乾燥させ、ハンマーで砕いて細かくし、利用しています。時々、馬ふんをもらってくることもあります。

野菜栽培

現在栽培しているのは、ミズナ、西洋わさび、リーク、ネギ、スプリングオニオン、ダイコン、カブ、ニンジン、ピーマン、チリ、トマト、ナス、アスパラガス、インゲン、ジャガイモ、サツマイモ、タマネギ、キャベツ、ブロッコリー、スイカ、ヒマワリ、ソラマメ、ハヤトウリ、カボチャ、ゴボウ、ナガイモ、パースニップ、ズッキーニ、ルバーブ、ハウレンソウ、シルバービート、ハクサイ、コマツナ、ニンニク、レタス、ハーブ類（パセリ、クレス、ミントなど）です。

野菜作りで困っていること

雨が降らない

この地の天気は不思議な感じがします。それは晴れると、ずっと晴れの日が続き、雨が降り始めると雨の日が続くことです。晴の日が続くと土がばさばさになり、水やりが日課となります。朝の水やりの水は、五右衛門風呂に溜めた水を使っています。

鳥の砂浴び

晴れの日が続くと、畑は鳥たちの絶好の砂浴びの場所になります。この対策には、野菜のタネを直接、畑に播かない。小さい芽が出たところに鳥たちが来て砂浴びするとめちゃくちゃになります。そこで、普通なら畑にタネを播く野菜(ニンジン、カブ、ダイコン、、ミズナなど)でも、ポットにタネを播いて育てた後、畑に移植します。それだけでは鳥たちの砂浴びを防げないので、針金をUの字に曲げ、これを植えた野菜の上に2〜3本、立てます。同じように竹の小枝を3本立てて入れないようにします。

果樹栽培

今シーズンと前シーズン

南半球の1年は夏に始まり、秋、冬、春と来て夏に終わります。北半球の1年は冬に始まり、冬に終わります。農作業、ガーデニングで言えば、北半球の1年は果物、野菜にしても、花が咲き、実を結び、収穫というサークルが1年のうちに収まります。南半球では1〜5月が夏と秋で6〜8月が冬になり、9〜12月に春、夏となります。

そのため、「今年のリンゴの出来は悪かった」というと、南半球ではどのシーズンなのかは、もう一つはっきりしません。そこで、ここでは9〜12月を今シーズンとし、1〜5月を前シーズンとします。

りんご

前シーズンに蜜入りリンゴが成り、感激しました。蜜入りになるのは品種、熟度が関係するとのこと。リンゴの木は3本ありますが、2020年に帰国中、どこからか侵入したヤギに樹皮を喰われてしまいました。今シーズン、その影響からか2本の調子はあまり良くなく、残ったフジも干害の影響か今ひとつ元気がありません。残ったものだけでも、今シーズンも蜜入りを期待しています。

アボカド

アボカドという果物、何とも変わっていて果物と言われると、「ちょっと変」な感じがしてなりません。初めて、このアボカドとの出会いはカリフォルニア・ロールに巻かれたアボカドでした。何と醤油との相性が抜群にいい。

わが家にも植えてみたいと思ったことがありましたが、植えてから収穫までに5年かかると聞き、

断念しました。NZ では割合に簡単に栽培できるようで、道端に車を停めて販売してる光景を、よく目にします。1 個 NZ\$1~1.3(約 80~100 円)くらいです。

このところ新聞などでみるアボカド情報は、あまりいいものがありません。主産地である中南米では、かの地の経済不安から盗難がひどく、その盗難防止のガードマンの費用までがコストに上乗せされているとか。

生育に水が割合に多量に要とのことで、世界中どこでも栽培できるわけでもないようなのです。その点、盗難の心配もなく、水の心配もない NZ はアボカドには適しています。かなりの大木となりますが、植えてみたい誘惑は、今でもあります。

お茶(1 本)

お茶の木が一本あります。どんどん伸びています。新芽を摘んでお茶にしようと、何回も試みましたが、うまく行かなくて困っていました。難しいポイントは、早く乾燥してしまいパリパリになってしまうことでした。HP で見つけた方法は電子レンジを使う方法でした。これで割合にうまくでき、何とか形になるようになりました。

オリーブ(2 本)

今シーズン、待ちに待ったオリーブに花が咲きました。小さな花で、地味な花です。調べてみるとオリーブも自家不和合性(自分の木の花では受精できず、他の木の花がないと受精しない)があります。わが家には 2 本のオリーブがありますが、今シーズンは 1 本だけに花が咲きました。花粉を求めて近所のオリーブの木を探しに出かけました。すると割と簡単に道路にはみ出したオリーブの枝を見つけました。花をもらって帰り、早速わが家のオリーブに受粉しました。ずっと観察していますが、なかなか実が大きくなりません。さて、今シーズンのオリーブに実は成るものかどうか。

ブドウ(多数)

パドックのフェンスを利用した垣根栽培をしています。今シーズンはどうも実の付き方がよくありません。前シーズンにたくさん実った反動のような気がします。

洋なし(1 本)

ほとんど実が着いていないように思っていたのですが、最近、見てみると割合に成っているのが見られました。木は老化しつつあるようですが、秋の初めに食べられるので、大事な果樹の一つです。

オレンジ(1 本)

今シーズンの実の着き方が、今一つです。今シーズンの出来次第では、本格的に切り詰める剪定をして、木の若返りを促してみようと思っています。

フィジョア(1本)

花を見ると、これまでよりも大きく、数が増えた気がします。ここ数年、草木灰、コンポスト、乾燥牛糞などを施してきましたから、その成果が現われつつあるのかと思います。今シーズンは期待が出来るそうです。

モモ(3本)

Jが果樹で唯一、管理担当しているのがモモです。これまでは、収穫のシーズンの2月には日本に帰国していて、食べられませんでした。コロナ禍で帰れなくなり、ようやく食べられるようになりました。今シーズンは、そこそこ期待できそうです。

イチジク(1本)

大分大きくなり、今シーズンは実が着いているのが見えます。今年は初めて食べられそうです。

ビワ(1本)

まだ幼木ですが、すくすく育っています。

ウメ(2本)

今シーズンも9個の実を収穫できました。木は大きくなり、木の高さは5mほどになりました。しかし、9個。自家不和合のウメで9個というのは奇跡としか思えません。ウメも、ほとんどの果樹同様、自家不和合です。前シーズンに新たにもう一本のウメを植えました。残念ながら同じ時期に花が咲きませんでした。来シーズンこそ2本のウメが同時期に花をつけ、枝もたわわにウメになるよう期待しています。

レモン(1本)

レモンは安定して実を付けます。手入れは、ほとんど必要なく除草するくらいです。この程度の手入れで、レモンが実るのですから、本当に有難い果樹です。

時々、レモン鍋なる料理をします。塩味の鍋にレモンをスライスして入れます。農薬のかかったレモンを使うのは、怖い気がします。こんな時には、無農薬レモンの出番となります。レモネードにもよく使います。

キウイ(1本)

わが家の果樹の中でも優等生なのが、このキウイです。前シーズンも929個のキウイが収穫できました。キウイは雌雄異株の木です。イチョウと同じようにオスとメスの木があります。わが家のキウイはオスが残っていたのですが、そこにメスの枝を接木しました。本格的に採れるようになったのは前々シーズンから。元々、この土地のオーナーだった人が植えたもので、今ではかなりの大木とな

っています。

キウイは収穫してすぐには食べられません。追熟というプロセスを踏んで、ようやく食べられるようになります。物の本によれば、エチレンを発生するバナナやリンゴといった果物と一緒にビニル袋に詰めて追熟させるとあります。しかし929個ものキウイを全部このようにする訳にも行きません。一部はリンゴ入りのビニル袋に、一部は冷蔵庫に、そして大部分はそのままにしておきました。何もしないで放置しておいたのですが、時間が経ち、柔らかくなったものは甘くておいしく食べられるようになりました。

これだけの個数ですから、どうなるか心配しましたが、毎日二人で2個ずつ食べたのですから、そのうち、なくなってしまうました。これだけのキウイを食べ続けてみて確実に言えることは、便秘にはてきめんに効きます。これまで、キウイと言えば酸味が気になったのですが、じっくり追熟させれば、酸味も消え甘くなることが分かりました。

ミニグアバ(2本)

すくすくと大きくなり、樹高4mほどになりました。実は酸味が強く、そのままではちょっと食べられません。

胡桃(多数)

日本産の殻の固いものと英国産の殻の柔らかいものがあります。実が落ちて、そのままの所は胡桃のジャングル状態になっています。日本産の固い胡桃は、ほとんど拾い集めていません。

ヤマボウシ(0本)

近所にヤマボウシの花を2本、見つけました。食べられると本では知っていますが、まだ食べたことはありません。今秋には、是非とも食べてみたいと思っています。

ミカン(0本)

Jの友人の年老いたおばあさん宅にミカンの木が2本あります。日本のミカンです。全く手を掛けてないのですが、隔年でよく成ります。前シーズンは成り年でたくさん、貰ってきました。自分のところのない果樹でも、友人宅にあれば、自分の所のもののように楽しめます。お礼に、りんごの木の剪定をやらせてもらいました。

草伸び放題の大きなパドック

このパドックには、近所の友人が所有するラッキーという馬が放牧されていましたが、この馬が死んでしまったことから、それ以後、パドックの草を食べてくれる動物がいなくなりました、広さは2,700 m²(約800坪)あり、主に改良された牧草が生えています。今では1.5mほどに伸びたままになっています。

この国では、適度に雨が降るので問題ありませんが、お隣の豪州でこんな状態で草地を放置すれば、大問題となります。ブッシュファイア(bush fire)という山火事で枯れた牧草に簡単に火が付いてしまい、家も火災に遭う危険性があるからです。何とかしなければ思い、近所で家畜を持っている人たちに声を掛けましたが、草丈が高かすぎると断られました。一見するとパドックのフェンスは同じに見えますが、フェンスに張られる針金の本数によって、入れられる家畜が違ってきます。針金の幅が広ければ、牛や馬を入られます。狭ければ羊やヤギを入られます。幅の広いフェンスに羊やヤギを入れると抜け出してしまいます。

家畜によっては草の食べ方が違います。羊は丈の高い草は食べられません。せいぜいが 15 cm くらいまでとか。どうも牛もあまり高いものは難しいとも言われました。

話によれば地元新聞に公告を出せば、家畜を持った人が現れるとの情報もありました。そうこうしているうちに、ラッキーの持ち主だった友人が、今度は牛を入れたいとの申し出がありました。草丈が高すぎることを伝えましたが、彼女によれば大丈夫とのこと。一大イベントのクリスマス、新年の後に、牛が入ってくれることになりました。無料で貸すことになりました。こちらとしては、大変に有難い申出でした。

ツバメ

10 月になるとツバメの動きが活発になりました。玄関のあたりにたびたび飛んでくる姿が台所から、よく目にするようになりました。台所に立ち、右手には元々の巣があります。玄関は左手に当たります。あまりにちよくちよく玄関のドアの方に飛んでくるので、ドアを開けて、見て見るとちょうど角になった隅に新しく巣をかけていました。ここは玄関であり、私たちにとってあまり都合のいい場所ではありません。

幸せを運んでしてくれるツバメの巣を撤去するのには躊躇しましたが、J が撤去しました。HP でツバメが巣を作りにくくする方法を探しました。すると表面がつるつるして滑りやすいテープを貼っておくといふとありました。早速、巣のあった場所にテープを貼りました。

2 週間後、今度は裏玄関の電灯の上に巣を作り始めました。ここもあまり歓迎できません。ここは作り始めてすぐだったので、泥はまだ生乾き状態でした。ここにもテープを貼りました。またしばらくすると、2F のベランダのすぐ下で、ちょうど隅になっているところに巣を作り始めました。今度は仕方なく、巣作りを認めることにしました。2 日ほどで原型が出来上がり、あと 3 日ほど乾燥させて完成のようでした。

昨年まで使っていた台所の右手にあった巣は空いたままでした。巣が出来上がって、しばらくすると子育てを始めたようです。中は見えないので卵や子どもは見えません。しかし何回もツバメが巣に戻ってくるので、子育て中に間違いのないと思いました。12 月になり、くつつきあった子どもの頭が巣の上に見えるようになりました。6 時すぎが私たちの夕飯の時間。ちょうどツバメたちも夕飯のようで、頻繁に親鳥が巣と大空とを往復します。そして大きくなった 4 羽の子どもが巣の縁に止まって、親鳥が餌を運んでくれるのを待っている姿が見られるようになりました。その後、すぐに飛び回

るようになりました。



ツバメの親の子育ての仕事は、抱卵と餌探しにあるようで、子どもたちは、親がトイレトレーニングするまでもなく、フンを巣の中ではなく外に落としていました。飛行の訓練もなしで、飛び回るようになります。ただ、飛び立ててもすぐには、自分で餌を捕まえられるのです。この写真のように親が餌を運んでくれるのを待っています。ツバメの敵となる蛇も猫も、ここにはいません。親鳥にとって子育てには、絶好の場所のようです。

最近、珍しいと思ったのが、旧の巣にも帰っていたのです。巣が手狭になったようです。^{つぶ}円らな瞳で、巣に固まって止まっている姿は、何ともかわいいものです。

わが家に来る鳥たち

肉食性の動物がいなせいか、たくさんの鳥が生息しています。朝晩はとりわけ賑やかになります。

この国のシンボルとなっているキウイですが、夜行性の鳥でわが家の周辺で見たことはありません。

鳥たちとの付き合いは、食べられなくなったパンや食べ物をエサ台に置いておいて食べてもらうことです。ご飯でも味付けされた料理でも、食べてくれますから有難いです。

よく来る鳥たち

ツバメ（わが家に巣を作っている）、スズメ、キジ、ウズラ（たくさんの子どもを連れてくる）、ファンテイル、プケコ（名前のとおりどこかドジな感じの鳥）、マイナ、ブラックバード

たまに来る鳥たち

カワセミ（日本のカワセミと違って腹部は白です）、イースタン・ロゼーラ、ツイ、ケルル、名前不明の海鳥

サウナ

サウナ建築の計画から、残念ながら全然、進んでいません。ロシア製の簡易テントを使ったサウナが出現したことを知りました。ストーブは電気とのこと。敷地の狭いところにはいいかもしれません。サウナ小屋の建設費も削減できます。しかし電気のストーブでは何とも頼りない感じがしますし、テントではフィンランドのサウナ小屋の雰囲気は味わえそうもありません。日本で出版されたサウナの本を取り寄せて、読んでいます。やはりサウナと言えばフィンランド風がいいと思っています。

飛行機が普通に飛ぶようになり、コロナによる入国制限、NZの2週間の隔離などがなくなれば、出来るだけ早く海外旅行先をフィンランドにし、サウナ小屋のサイズ、設計図の入手、ストーブやサウナストーンの種類を調べに出掛けたいです。今年になり、新しいアイデアが浮かびました。それは移動可能なサウナ小屋にすることです。将来、今の家が広すぎて手に負えなくなり、小ぶりの家に移

った時にも、そこにサウナ小屋を持っていきたいのです。

フィンランドに行くことになれば、この機会にロシアの侵攻が危惧されるバルト3国へも、行けるうちに行っておこうと思っています。

五右衛門風呂

2019年に金属製のバスタブで作った五右衛門風呂ですが、12月20日から火災の恐れがあり、屋外での焚火は禁止されます。そうすると、せっかくの露天風呂である五右衛門風呂も火を焚けなくなってしまいます。夏は屋外での入浴の一番気持ちのいいシーズン。火を焚かずに、お湯を作る方法を考えてみました。一番簡単なのは、黒パイプに水を入れて屋外に置いておくとお湯が出来ます。しかし、この方法でバスタブにお湯を埋めるのは無理です。仕方なく、屋外焚火禁止期間が終わるまで、露天風呂はお預けとなりました。この露天風呂、一部を改良しました。それは肘を乗せる浴槽の側面に木製のひじ掛けを取り付けたことです。これがないと熱い。そこには五右衛門風呂のようにスノコを敷いています。

最近になって、朗報が舞い込みました。バーベキュー(BBQ)するための焚火なら許可されると聞いたのです。バーベキューは、この国の伝統的な料理です。ことあるごとに簡単なBBQで集まりを楽しみます。BBQには火がつきものです。家のそばなら、電気かガスを熱源として、肉や野菜を焼きます。しかし、キャンプなどの屋外の場合、持って行った炭を使います。炭に火をつけるには焚火が必要です。そんなところから、焚火禁止期間でもオンラインで申し込みすれば許可されることになったそうです。真夏の五右衛門風呂もその延長で許されるのではないかと期待しているところです。

旨いもの、美味しいもの

ここのところ外国へ出掛けることもできず、時間もたっぷりあったので、身近なものの中から、旨いもの、美味しいものを見つけました。

ぬか床

古くは毎日かき混ぜなければならなかったため、ヌカミそ臭くなるといって女性にとっては、あまり評判の良くなかったぬか床。最近、毎日かき混ぜなくてもいい、ぬか床が発明され、評判だと知りました。一週間に一度だけ、かき混ぜればよく、長期不在でも冷凍保存しておけば保存が可能という優れたもの。日本のオンラインで注文して、友人に送ってもらいました。早速、ニンジンとインゲンを入れてみました。久しぶりの漬物で思わず、「旨い」と唸りました。

わが家のナスやカブ、キュウリなども早く入れてみたいものです。

放し飼いの鶏

スーパーでも一般的に放し飼いの鶏が産んだ卵(Free range egg)や肉(Free range meat)が売られています。微妙な味の違いまでは分かりませんが、何か安心して食べられるような気がして購入してい

ます。

ワラビ(Bracken)

敷地の日当たりのいい一郭にワラビが生えるところがあります。ワラビというと何か日本の特有の山菜のイメージがありますが、調べてみると南極以外のすべての大陸に産するとあり、吃驚しました。

NZの先住民であるマオリも、これを食べるそうです。ただ、どうもアク抜きはしないようなので大丈夫なのか心配になります。わが家にはアク抜きの灰は、ストーブからのものがたくさんあるので、アク抜きして食べています。毎年、春には出てくるワラビを採り、少し苦めの味をみそ味で楽しみます。春の訪れを実感する一瞬です。

プロポリス キャンディ (Propolis Lozenges)

わが家の敷地の一部を養蜂会社に提供して、ミツバチの巣箱を置いてもらっています。この会社が発売したのがプロポリス入りのキャンディ。健康にも美容にもいいとされるマヌカも入っています。甘さが病みつきになる味で、ここのところ毎日のように舐めています。

日本の味がしないジャガイモ、カボチャ

よく作る料理に野菜の煮物があります。和風の味付けで塩、味噌、醤油を使います。この国にも、もちろんジャガイモもカボチャもありますが、煮物にするとあのほくほく感がなく、ぱさぱさしていて旨くありません。ここではクマラ(Kumara)と呼ばれるサツマイモも、電子レンジで温めて食べますが、水っぽくて美味しくありません。しかし、スープなどにするには、この方がいいようです。

キノコ

わが家の草地にこれまでもキノコが生えているのを見かけたことがありました。しかし、キノコには毒があるものが多いだけに、食べてみることもありませんでした。しかし、形がシイタケのようで、色具合はシメジのようなキノコを見つけ、友人に食べられるか判断してもらいました。食べられると判明しました。この時、旨いという Bolete というキノコをもらってきました。バターで炒めて食べましたが、確かに美味でした。

臺(とう)の立ったハクサイ

栽培していたハクサイの臺が立ってしまいました。ハクサイはアブラナ科の植物ですから、菜の花のような黄色い花が咲きます。もったいないので、おひたしや煮物に使ってみました。全く癖がなく食べられました。これはマーケットには絶対出てこない珍品の味とも言えます。

雑 煮

2022年1月1日の正月の朝には、至ってシンプルな葱、カシワだけの醤油味の雑煮で祝いました。角餅がなかったので、丸餅を割って焼いたものを入れました。オンラインでお節料理を注文できるシステムが未だないため、雑煮だけが唯一の正月らしい料理でしたが、雑煮は美味でした。

オンラインショッピング

2020年2月に帰国して以来、コロナ禍で帰国できないでいます。それまでは年2回、2月と8月に帰国していましたから、日本で買物をしてNZに戻っていました。ほとんど毎回、買っていたのは焼のり、昆布茶、昆布でした。これ以外では、頼んで作ってもらった梅漬けを持って帰れなくなってしまいました。

やはり毎日のように食べていたものがないと、寂しい気持ちになります。そこで思いついたのがオンラインショッピングです。とても便利だと思ったのが、ヨドバシカメラの通販でした。注文して、翌日には国内の指定の場所に荷物が届くのです。しかし、海外発送はないようです。幸いにして、千葉の友人が荷物の受取、そしてNZへの発送を引き受けてくれることになりました。

それまでも日本からの定期的な荷物はありました。それは友人が送ってくれる新聞です。これはクロネコ便で送られてきました。そこで、時々、湿布や本などを入れてもらったことがありましたが、クロネコ便、内容物のチェックが厳しくなりました。開封してチェックするのです。そこで千葉の友人に、その旨を伝えると、日本郵便の小型包装物で対応してもらえることになりました。日本郵便は開封までしないとのこと。何か両社の社風が現れているように、面白いです。

このルートが出来たため、NZでの買物で不満のあるものを、日本で買って送ってもらうことにしました。時間と費用はかかるものの、安心、満足感の方が勝ちます。一例を挙げます。それはポリバケツです。もちろん当地でもポリバケツは売られています。中国製なのでしょう、価格はNZ\$1.99(約160円)と安いのですが、使っているとすぐに取り手と本体の間が壊れて、使い物になりません。どうして、こんな商品が売られているのか全く理解が出来ません。

金属性のバケツもありますが、これは重い。日本で使っていて10年前の引っ越しの時も持ってきた日本製のバケツ、今でも健在で使っています。そこでオンラインで買って、送ってもらうことにしました。もし日本に帰国しても、バケツを持って帰る訳にもいかないのです。友人に小型包装物にして送ってもらうのは本当に助かります。最近では、日本でしか買えない食品のかんぴょう、湯葉、南部せんべいなども送ってもらうようになりました。

NZでのオンラインショッピング

日本食品や雑貨などを扱うジャパンマート(Japan Mart)という店がオークランドにあります。コロナ禍になるまでは、時々、この店まで買い出しに出掛けていました。ところがロックダウンとなり、行けなくなったこともあり、オンラインで購入することになりました。

しかし、オンラインで注文できないものもあります。それは冷凍食品です。残念ながら、この国には日本のようなクール便はありません。不便極まりない。物流システムが完備していなくて、翌日配

達とか当日便などは出来ないのでしょう。12 月に注文した時には、ロックダウン中ということもあったのでしょう、オークランドを発送したという通知の後、一週間かかりました。車で走れば2時間以内の所にも拘わらず、一週間とは、まったく理解ができません。

薪ストーブ カーボンニュートラル

12 年前、この家を購入する時の条件の一つに、薪ストーブがあることがありました。永年、薪ストーブのある生活に憧れてきました。小学生の頃の学校のストーブは薪ストーブでしたので、その温かさ、匂い、音などを知っています。薪がぱちぱち音を立てて燃え、ストーブのそばに座り、炎が踊るように燃えるのを見ると、何とも安心感とともに、心が静かになっていきます。古代からの人間と焚火の火の心地よさの記憶が蘇るからなのでしょう。ここでは、隣近所に家がないので、煙、におい、煤を心配することなく、ストーブが焚けます。薪は自前で準備できます。

NZ での不動産売買では、売り手が承知すれば、付属するストーブ、カーテン、電灯、テレビ、テレビアンテナ、食洗器、冷蔵庫、大工道具、ローンモア、ベッドなども不動産の付属物として購入できます。そこで私たちは2つあるストーブを含めて家を購入する旨の申し出をして、買うことが出来ました。

最近、カーボンニュートラルということが声高に叫ばれるようになってきました。地球温暖化を防止するため、二酸化炭素を出さないことが大切だという主張です。薪ストーブは火を焚けば、二酸化炭素が出てきます。すると薪ストーブが使えなくなるのではないかと心配が出てきました。そんなことになったら困ります。

そうすると HP で調べるに限ります。長野県にある環境保全研究所の調査書が目にとまりました。心配していることをメールしました。回答は次のとおりでした。

【ご指摘のとおり薪を燃やせば CO2 が発生します。しかし、その際に発生する CO2 はもともと植物が成長段階で光合成により大気中から取り込んだ CO2 であるため、大気中の CO2 を新たに増加させないので、カーボン・ニュートラルであるとされています】

これで薪ストーブは引き続き問題なく使えることになり、一安心です。

しかし、これは何とも面白い論理です。古い時代に石油や石炭に取り込まれた炭素は悪であり、近年、薪に取り込まれた炭素は悪ではないという論理です。石油は数億年前の植物の死骸から出来たものですし、石炭は数千万年～数億年前の植物が化石化したものです。

J の古い友だちが近くに引っ越してきた

J の 50 年前のオークランドの女子高時代の古い友だちが 2 軒先(約 150m 離れている)に、家を購入して引っ越してきました。彼女は高校時代に一年間、横浜の高校に留学生として来ていた経験もあります。オークランドに住んでいましたが、田舎志向もあり、J を含めた友人が、この辺りに多く住

んでいることもあり、定住することになりました。気に入っていた今の家の住人が11月に出ていくことになったのを機に、購入することになりました。

これまでも、私たちが日本に帰国している間、留守番をしてもらったりしていました。近くに来てくれて何とも心強い限りです。最近、彼女の敷地に生える竹を切り倒してきて、マメやキュウリの支柱に使っています。

バラフェンス

2009年に、この家を購入し、荷物を運び入れ、しばらくして落ち着いた時に、ピンクのバラがフェンスに絡まって咲いているのを見つけました。このバラ、繁殖力が強そうに見えたので、このバラフェンスをどんどん伸ばそうと考えました。地面に伸びた枝が根を出しているのを掘り起こして、フェンス沿いに植えました。

2021年11月も見事に満開となりました。このバラが咲くと、春の訪れです。バラフェンスの長さは35mになります。



台所に立つと正面に、このバラフェンスが見えます。この地方のシンボルである山、カランガハケ山がバラフェンスの先に見えます。手入れは伸びた枝を剪定するくらいで、手間いらずです。特別に病気ありません。満開になったあとでも、四季咲きですからぼつぼつと花を咲かせます。一部、赤いバラを接木したところがあります。そのうち、白や黄色のバラも接いでみようかと思っています。

わが家のロゴ付の皿が完成

かねてから考えていたわが家のロゴ付の皿が、遂に完成しました。作製したのはHの古くからの友人で豪州・アデレード在住のピーター・スティーブンス。彼は多才で2018年に、出版されたJとHの共著「元経済産業省英文校閲者が書いたビジネスによく効く英語の本」の表紙の絵もコンピュータを駆使して描いてくれました。

ロゴのデザインは、Hの姓の頭文字HとJのYとを組み合わせたものです。Mは山、Yは木をイメージしてデザイン化したものです。出来上がった皿を見ると、文字部分が今一つくっきりと仕上がっていない不満もありますが、今ではようやく完成したという満足感の方が強くあります。



Covid-19 Star Alliance



2020 年から 2021 年にかけて、世界中でもっとも有名になった存在は何かといえば、断トツに Covid-19 が挙げられます。後年、このコロナ禍の記憶を呼び起こす何かないかと頭を捻った結果、浮かび上がったのが Covid-19 の彫刻でした。

Covid-19 は肉眼レベルでは、姿が見えません。恐ろしい病原菌であることに間違いはありません。しかし、どれだけ恐ろしいかなものをイメージしても、想像を絶するこの悪魔をうまく表現できないと思うようになりました。コロナウイルスが発生した頃、話題となったアマビエ、子どもたちに大人気のアンパンマンに出てくるバイキンマンというキャラクターがあります。このバイキンマン、悪い奴には違いありませんが、どこか憎めない愛嬌もあります。これらのことから浮かび上がったのが、今回の作品です。

材料にしたのは不用品、ゴミ、壊れたもの、自然にあるものを使いました。²⁰角には豪州の廃線で拾った線路を固定するのに使われたペッグ、鼻はワインの栓のコルク、頭の土台となったのは枕木、眼は海岸に残された貝殻、イヤリングは壊れたスパナ、イヤリングの先を飾る宝石は、星のデザインのあるビールの王冠にしました。

タイトルの Star Alliance は、飛行機の世界では航空連合として耳に馴染んだ言葉です。新聞紙上には日々、コロナ感染者と死亡者数が国別の表となって掲載されています。コロナ感染者と死亡者数とも断然トップなのがアメリカ。一方、Covid-19 の発生源とされる中国の名前は、どこにも見当たりません。データの発表がないためなのでしょうが、不自然です。武漢で初めて患者が見つかって以来の秘密主義で困ったものです。

この両国がコロナ 2 大国であり、近年、頓に不仲が取りざたされる両国に奇妙にも共通するものがあります。それは、国を象徴する国旗に星がデザインにされていることです。そこでタイトルは Covid-19 Star Alliance としました。そこで、Covid-19 Star Alliance の彫刻には、イヤリングの先を飾るのは、星の付いた王冠にしました。何と最近では、王冠の代わりに、アメジストの原石を頭に載せています。

Covid-19 Star Alliance の詳細

体重	9.1kg
高さ	40cm
幅	18cm
奥行	14cm

鳥の彫刻

1 億 5 千年前のジュラ紀後期にこの世に出現されたとされる始祖鳥。その後、進化を遂げて空を自由に飛べるようになった今の鳥たちとなりました。

ところが、春になり若鳥が飛び立ち始めると、わが家の大きなガラス窓に激突し、敢えなく死んで

しまう若鳥たちと思われる鳥たちがたくさんあります。何とも心痛むものがあります。

こうした悲劇はわが家だけかと思っていたところ、そうでもなくニューヨークからの映像は衝撃的でした。高層ビルにぶつかり歩道に落下してきた鳥たち。その数、多数。どうも若鳥たちだけではなさそうです。

https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp_614815d0e4b0d9b6de986a13?utm_hp_ref=yahoo

始祖鳥からの進化の過程には、ガラス窓を避ける能力は組み込まれてこなかったようです。そこでその機能を装備した進化した鳥のイメージを彫刻で表現してみようと思い立ちました。

コロナ像に続く第2作は、鳥の彫刻を作ってみたいと思っています。完成すれば、死んだ鳥たちの慰霊の気持ちを込めて、フェンスの支柱の上に置くつもりでいます。

東京 2020 夏季オリンピック

コロナ禍で大変な大会でしたが、2021 年 7～8 月にかけて東京を中心として開催されました。

7 月 23 日の東京オリンピックの開会式を生中継していたニュージーランドのテレビ局が、新型コロナウイルスで亡くなった人や、1972 年のミュンヘン五輪でのテロ犠牲者らを追悼して行われた黙禱（もくとう）の最中に CM を流し、批判を浴びました。

男子サッカー予選の NZ－韓国戦、NZ が 1-0 で勝利しました。終了後、NZ 選手が握手を求めましたが韓国選手がこれを拒否し、国際的な不評を買いました。韓国というと妙に日本に対して敵愾心を燃やす国ですが、相手が NZ でも、このような行為を行うとは。ただの無知、常識外れで済まされるものではありません。幸いだったのは、韓国国内でもこの選手の行為が不評だったことです。

今大会の話題の一つに男性から女性に性転換したニュージーランド人の重量挙げ選手(43 歳)がありました。性転換した選手が、この競技に参加したのは初めてのことで、結果は途中棄権でした。

今大会中、NZ の獲得したメダル数は金 7、銀 6、銅 7 の計 20 個でした。これは、全体で 13 位に相当する結果で大健闘でした。NZ は小国のため、メダル数だけで比較すると、大国と比べるとやはり不利なことがあります。オリンピックを含むスポーツ大会の世界大会などの時、人口当たりでどれだけ活躍したかといった指標を持ち出してくることがあります。今回の結果を人口別にランクすると、1 位サンマリノで、8,482 人で 1 個のメダルを獲得しています。以下順に 2 位バーミューダ、3 位バハマ、そして 4 位が NZ となります。この指標で比べると総合で 1 位だった米国も 50 位となり、中国は 76 位に沈みます。

北京 2022 冬季オリンピック

何かと話題の多い北京 2022 冬季オリンピックが迫ってきています。米国・バイデン政権は、外交ボイコットを発表しました。新疆ウイグル自治区などでの人権状況を理由に挙げています。米国に続いて、豪州、カナダ、英国も同様に外交ボイコットを表明しました。これらはファイブ・アイズを構成する国々です。ファイブ・アイズとは、米英などアングロサクソン系の英語圏 5 カ国による機密情報共有の枠組みの呼称です。米英が立ち上げ、1950 年代までにカナダ、オーストラリア、ニュージー

ーランドが加わりました。米国以外は英連邦の構成国です。

ファイブ・アイズの中で、外交的ボイコットを表明が遅れていたのが、予てから中国寄りとされているニュージーランド。しかし、米英のような人権問題を理由とするのではなく、新型コロナ感染予防のためとの理由にして、事実上の外交的ボイコットを表明しました。日本政府は米中の両方の顔を立てる玉虫色の外交ボイコットとなりました。

政策金利の上昇

ニュージーランド準備銀行(NZRB、日銀に相当)は続けていた低政策金利 0.25%を、インフレ懸念から 11 月に 0.5%に、そして 12 月に 0.75%へと利上げしました。これに伴い、銀行定期預金金利(Westpac 銀行)は、一年定期で 1.3%(10 月)⇒1.75%(11 月)⇒2.2%(12 月)と、ほぼ倍になりました。

元々、NZ の政策金利は高金利で有名でしたが、経済成長の低迷やコロナ禍の影響もあり、2020 年 3 月から 10 月まで 0.25%を続けてきていました。今回の利上げは 2014 年 7 月以来、7 年ぶりのこと。日本の定期預金利率と比較してみると、三井住友銀行の一年定期で 0.002%。実に 1,100 倍の利率です。

物価の年ごとの値上がりの比較をみると、身近なところで日本への航空便(200g まで、13cm*23.5cm*0.5cm)では、次の通り。

年	価格	前年比
2019 年	\$3.00	
2020 年	\$3.50	16.7% up
2021 年	\$3.60	2.9% up

H、日本の税非居住者に

2009 年 9 月 10 日に NZ のこの家を購入し、定住を始めて、しばらくして大きな壁となったのが、税金のことでした。NZ の税金は高いことで有名なので、どうなるのかと心配していました。NZ 税当局(Inland Revenue)と郵便で半年に亘る交渉の結果、私たちは NZ の税居住者ではないと認定されました。

通常、税当局は、自国の税収を増やすために、どこの国の税居住者であるかはっきりしない人は、何とか自国の税居住者にしようとしします。生きている以上、私たちは税から逃れることはできません。どこに住んでも、どこかの国で課税されます。

どこの国の税居住者となるかは、次の条件で税当局によって判断されます。

- ① 年間の滞在日数が 183 日以上かどうか
- ② 家などの不動産があるかどうか？ 住んでいる地域の活動に参加しているかどうか？ 銀行口座をもっているかどうか？

当時、私たちは年間 183 日(一年の半分以上)以上は NZ に滞在していましたし、家もありました

し、銀行口座もありました。ただ、収入は日本からのものだけで、NZ でのものは全くありませんでした。NZ 税当局の審査の結果、私たちは NZ の税居住者ではないと認定されました。ポイントとなったのは、私たちの収入が日本からしかないという点にありました。

これを受けて、それまで同様、日本の税居住者として確定申告を続け、還付も受けてきました。2020 年分も、その延長で確定申告しました。ところが国税庁の審査の結果、日本の税非居住者と認定されました。税金の私たちの立場は、「NZ でもない、日本でもない」となったのです。何とも宙ぶらりんの感がしてなりません。

非居住者といえば、日本で税金を支払わなくてもいいかというと、とんでもありません。所得税はしっかりと課税されますし、税率も高くなります。年金の税率も、同様に高くなります。これまで確定申告の際、収入の対象とされた利子、配当、公的年金が外され、扶養や医療費の控除もなくなることになり、その結果、毎年還付を受けていましたが、それもなくなりました。

僅かに特典としては、株譲渡益が非課税になることと、海外財産(不動産、絵画など)の売買益がなくなるくらいです。まあ、それでも、税金の高い NZ の税居住者にならなかったというのは、いいことです。今回の日本の税当局により、日本の非居住者とされたこと、全体的に見たら、プラスマイナスとんとんで、まあまあといったところかなと思っています。J もしばらくすると日本の非居住者の扱いとなるものと思われそうです。

昨年、デジタル庁も発足し、日本政府もデジタル化を推進するという目論見ですが、今回の非居住者の認定の過程を振り返ってみると、本当にそんなことが出来るのかといった絶望感が先に立ってしまいます。関係する税務署への連絡方法は電話しか認められず、電子メールは駄目。税のことですから、相当に込み入った内容のこともあります。文書化したもので相談しようとしたら、納税管理人という人を決めるように言われ、友人にお願いしてなってもらいました。この友人に質問や疑問点をメールして、彼女がそれをプリントして税務署に行き、相談した結果をパソコンに入力して、メールで送り返してもらうということをしていました。隔靴搔痒とは、正にこのことです。

行政のデジタル化の中には、電子メールの活用もあったはずですが。国民と国との直接的な接触の一番多いのが税務署と思われます。連絡手段として電子メールの利用ができることを切に願っています。

J の年金

J も 65 歳となり、NZ 政府から年金をもらえるようになりました。この国の年金制度は税方式で、日本の社会保険方式とは違います。日本で年金をもらおうとすれば、月々、保険料を支払い受給開始年齢になったら、年金をもらうという方式ですが、NZ では保険料を支払わなくても、年金をもらえます。その年金の財源は、NZ 政府の税金が充てられます。

2021 年の自民党総裁選挙に当って、年金の税方式を主張した候補もありましたが、日本での年金の税方式は、難しいように感じます。もちろん財源の問題もあります。それに「アリとキリギリス」というイソップの寓話がありますが、日本人はこの分類に従えば、断然、アリになります。こつこつ

とお金を貯め、将来に備えるのが日本人の国民性からです。2020 年にコロナ対策で支給された給付金も使われず、ほとんど貯金されてしまったようです。それに税金をたくさん払う人と、そうではない人たちとの不平等感は、日本人の平等を貴ぶ国民性に馴染みません。

NZ で年金を受給するための条件は、次のとおりです。

- ① NZ 国籍を有する人、または永住権保持者
- ② 年齢が満 65 歳になった人
- ③ 少なくとも 10 年以上、NZ に住んでいること
- ④ 50 歳になってから、少なくとも 5 年以上 NZ に住んでいること
- ⑤ 普段、NZ に住んでいること

実際、NZ で年金をもらうようになるまで、分からないことが多くありました。その最大の疑問は、財源である所得税を払ってなくても給付の対象となるのかということでした。これは杞憂に終わりました。実際、J はこれまで 12.5% の一般消費税は支払ってきましたが、所得税は全然払ってきませんでした。それは NZ の税当局に NZ の税居住者ではないとされてきたからです。J の翻訳の仕事は、オンラインで日本のカスタマーを対象としていて、NZ での収入は全然ありません。

年間の年金額は、現在の多少の円安（約 80 円/NZ\$）ということもありますが、税引き後の年額で 150 万円ほどになります。これまでに日本で掛けた保険料分の年金は年金機構から日本円で、日本の銀行口座に振り込まれ、残りの分が NZ の口座に 2 週間に一回、NZ\$ で振込されます。J も日本在住の頃、年金機構に何回も足を運び、日本で年金をもらうか、NZ でもらうかを考えながら、保険料の支払いをしてきましたが、どちらでも、年金額は、ほぼ同じと聞いていました。しかし、実際に貰って見て、大きく違い、嬉しい方に間違っていました。なお、夫婦の場合の年金額は 250 万円ほどのことです。これだけあれば、この国ではそこそこの生活ができます。

NZ に移住し、永住権を取得しようと考えている方は、この年金のことも是非、頭に入れておいていただきたいものです。もちろん、詳細の部分での変更はあると思いますが、年金が税方式であるという根本は変わることはないでしょう。

J は年金受給者になると同時に、ゴールドカードというカードを受け取りました。指定された店舗で買物をすれば 5% の割引をしてくれます。パエロアではあまり使える店はありませんが、高齢者を大切にしている心遣いは嬉しく思います。

ドンベとマリオ

「ドンベとマリオ」というのは、H が書き続けている物語のタイトルです。書き始めたのが 2013 年 7 月からですから、もう 8 年半にもなります。毎月、10 日締切で、A4 で 2 ページ分ずつ書いています。締切があるお蔭で、^{ひとつき}一月のペース配分ができ、何とか書けています。よくもまあ、こんなに長く続いたものです。ドンベは J のこと、マリオはキューピッドという設定です。2 人とも近く日本に定住し、思いもしないような新鮮な視点から日本社会を分析してくれるという設定です。

これからドンペは日本語の勉強とかわいいもの探し、マリオは小学校一年生として、自分探しの一年間を日本で続けます。物語は会話中心で、まだまだしばらくは続きそうです。たぶん、完成は3年後くらいでしょう。もし、読んでみたいというご希望があれば、毎月、メールで送らせていただきます。最初にお送りする時に、これまでのあらすじと最新号をお送りします。ご希望をお待ちしています。

日本図書館

今年は、人の往来がコロナ禍で制限されていたこともあり、日本図書館への来訪者は少なかったです。

2021年に名誉館長の男性が亡くなったため、新たにタウランガ在住の女性（元司書）に、その役をお願いしました。ずっと前からの課題である website やチラシなどの広報活動に力を入れて、幅広く宣伝したと思っています。

今年の季節のご挨拶も長いものになってしまいました。最後までお読みいただき、どうもありがとうございました。

皆さまにとって、2022年が健康で、希望に満ちた年となるようにと願っています。

2022年1月

アオ テア ロア（長く白い雲のたなびく国） ニュージーランドより

ジリアン・ヨーク

jisabelle29yorke@gmail.com

森下 均

arbo4000@gmail.com

住 所

37 Edwin Road, RD4, Paeroa 3674, New Zealand

電 話

国番号(64)-7-862-6834